

---

# カタタカ、ヤハナカ、リルラ、リルラ、リルラ

々々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カタタカ、ヤハナカ、リルラ、リルラ、リルラ

### 【Nコード】

N2311F

### 【作者名】

々々

### 【あらすじ】

昔書いた、小説かも詩かもわからない文章です。カタタカ、ヤハナカ、リルラ、リルラ、リルラ、リルラカタタカ、ヤハナカ、リルラ、リルラ、リルラ、リルラカタタカ、ヤハナカ、リルラ、リルラ、リルラ

コトリとビー玉が落ちました。

手の中にあつたそれは、割れることなく、日だまりの中へと、零れて行きました。

日だまりの中のビー玉が作る影は、何故だかとても優しい色をしています。

コロリコロコロ

ビー玉はただ、淡い光をまき散らし、太陽から隠すように影を産み、ミルラとそこに、ただ座っています。

不意に風が、土が、草が、雨が、光が、闇が、彼を彼女を恐れました。

ああ、そうか。だから君はそこにいるのか。

コトリと落ちたビー玉は、最早彼では彼女ではありませんでした。

淡い光は、優しい影は、ただ、ルミラとハヤヤと、歌います。

カタタカ、ヤハナカ、リルラ、リルラ、リルラ、リルラ。

やがて、空は、海は、山は、マツマチ、ナナナメ、イバ、ククラ。

マチチバ、ヌルヲ、キバ、ツツミ、ワライ、ワライ、ミツバタナ。

ヌエ、ヌエ、サババナ、ニタニノイキカ、サツマノニハハ、イヌン  
ルル。

リフマ、ヤフマ、カタカタ語り、月は、星は、影を潜めました。

残されたのは、ワララサヌフメ、ただ一人。他には誰もイナイイナイナイ。

きつと、そこには、希望とケルラが、願いとハミグが、あるんだろ  
うね。

そう呟いたビー玉は、いつの間にかもう、彼では彼女ではありませ  
んでした。

遊べるかな。また、あの頃みたいに。

ヤツマな手を眺めながら、キワリキワリとヤササメます。

ああ、僕は私はなんてツマナナニ生き物なんだ。誰も僕を私を見て  
は紅。

やがて彼の彼女の君の僕のまわりは、彼を彼女を君を僕を避けるように、リカラルンタ、リカラルンタ、リカラルンタ。

きっと僕は君は、幸せにはなれないね。

きっと僕は私は、ハルルンにはなれない。

夏田はどうした？

秋が来ないんだ。

まだ、間に合うかもしれない。

もう、間に合うはずがないんだ。

マッチをください。マッチをください。お願いします。お願いします。す。

キビエタフサキノハツマリキユナ、ツクシハウルルグメジロハニカニム。

助かりません、助かりません。

まだ、今日は終わらないんだ。

もう、電車は来ませんよ。

今が終電でしたから。

薬缶の音、湯気の声。遠くに響く汽笛の叫び。

ヤクモヤクモ、トタトタニママリ、エササノハララギ、マツツノエ  
ン。リンラハネタタミ、ネ、タタミ、ナツカシイカレノカノジヨノ  
コエヲキイタキガシタ。

ああ、僕は私は君は貴方は、まだこんなにも許されていたんだ。

ああ、僕は私は君は貴方は、ただ許されたかっただけだったんだ。

もう間に合う？

まだ、間に合わない。

いつになったら、間に合わない？

いつか、きっと、間に合う。

不意にまた、懐かしい風が横を通り抜けた気がした。

そして彼は彼女は、暖かい手を、温かい日だまりを、思い出した。

それは夢の中のことのような、輪郭のない、ぼやけた、優しさでした。

まだ、そのぬくもりを覚えていてよかった。

まだ、僕が私が君が貴方が彼が彼女が、僕で私で君で貴方で彼で彼女であることを覚えていて、本当によかった。

波紋のような雫を残して、コトリと落ちたビー玉は、そこにただ、座っていた。

やがて、ビー玉の隣にいたコトリは休めていた翼を広げると、大空へ羽ばたいた。

濡細っていたその翼は、今やイカロスの翼。 鑑でできた偽りの、翼。

コトリはそれには気がつかない。ただ、自分を信じて翼を、羽ばたかせ続ける。

初めての自由を楽しみ、コトリと落ちたコトリは、ナキキナクナクニキキニキキニカニカクカリ。ミツマノハママノニシノカツメニ、ツナナニハツメテ、アカニヲニニカタ。

ヨトセのハツマはカタリと語り、まるでキミのようだと笑っていた。

遠くの異国の空からは、あの日の歌が、今も聞こえているような、そんな気がした。

ありがとう。そして、ごめんね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2311f/>

---

カタタカ、ヤハナカ、リルラ、リルラ、リルラ

2010年11月14日09時31分発行